

板倉キャンパスで 群馬県幹部会議が行われる

4月14日(木)午後1時から板倉キャンパスにおいて平成17年度群馬県幹部会議が開催され、群馬県幹部職員と板倉町住民並びに本学学生・教員等との交流が図られた。当日は、群馬県知事、教育長を含む群馬県関係者約500人及び地域住民、地元高校生・中学生、本学学生・教員等総勢700名が参加。

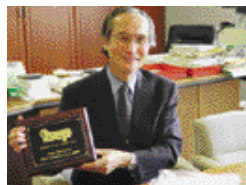
会議に先立ち、松尾友矩学長が挨拶し、続いて「板倉ニュータウンの街づくりについて」「群馬県の広域観光戦略について」「大学と県の共同研究について」の3つのテーマについて各パネラーの意見発表及び会場からの質疑が行われた。官・民・学が一体となり、今後の地域活性化についての提言が活発に取り交わされた。



ISEP本部が本学を訪問

5月13日(金) ISEP International Student Exchange Program 副会長のスーザン・ルックス氏が本学白山キャンパスを訪れた。ISEPとは米国内外の加盟校間で学生交換留学を推進する全世界的なコンソーシアムで、世界各国にわたり約250大学から組織される。

昨年、本学はISEPに加盟、アメリカの加盟校131大学との間で交換留学が可能となり、今年から本格稼働となるが、それに先立つ視察として菅野卓雄理事長ならびに松尾友矩学長と懇談した。語学力の向上、異文化への理解を通じて教養のある国際人を育成するプログラムとして、今後の活発化が期待される。



ISEPとの提携を記すプレートが贈呈された

ライフデザイン学部開学式が行われる

今春、朝霞キャンパスに開設されたライフデザイン学部の開学式が5月20日(金)午前10時から朝霞キャンパス2号館で行われた。記念式典にはライフデザイン学部第一期生となった全学生および来賓、学部教員、大学関係者などあわせて約500名が出席し、新学部の門出を祝った。

菅野卓雄理事長による式辞、松尾友矩学長による挨拶ではともにライフデザイン学部設立の経緯が述べられ「世界で最も早いスピードで高齢化が進む日本で、国際的な課題に立ち向かっていくという気概を持って尽力してください」と、学生への大いなる期待が語られた。

続いて、来賓の富岡勝則朝霞市長から「新たな学問分野の誕生が学生さんにとっても、大学にとっても、朝霞市にとっても大きな実りになることを祈念しております」と祝辞が述べられた。



学生からは一期生としての決意が語られた。代表として壇上に立ったのは高橋亮さん(生活支援学科)と小島美穂さん(健康スポーツ学科)の2名。それぞれライフデザイン学部の志したきっかけや、将来への展望などを述べ、4年間を有意義に努力することを誓った。



また、古川孝順ライフデザイン学部長が「ライフデザイン学の展望」、平成18年度設置構想中の人間環境デザイン学科(仮称)教授に就任予定の内田雄造工学部教授が「人間環境デザイン学科の創設とその役割」と題して記念講演を行い、学部学科のミッションやライフデザイン学の構築において必要になる新たな視点を提起した。



INDEX

ニュース&インフォメーション

P19

ライフデザイン学部開学式が行われる

板倉キャンパスで群馬県幹部会議が行われる

ISEP本部が本学を訪問

P20

「キャリア形成を考えるための特別講演会」を実施

P21

春学期双方向遠隔講義「全学総合科目」がスタート

校友会学生研究奨励基金授与式が行われる

経営学部成績優秀者授与式が行われる

塩川正十郎奨学金授与式が行われる

P22

私立大学学術高度化推進事業に工学研究科のプロジェクトが選定される

井上円了記念博物館 常設展のお知らせ

建築家 J・マイヤー・H氏による特別レクチャーを実施

Robocup国内大会にて東洋大学チームが3位入賞

P23

平成17年度東洋大学入学試験結果

P24

『井上円了の教育理念』読後感想文/小論文コンクールのお知らせ

学祖祭を挙げる

法科大学院「模擬法廷」が完成

P25

納付金(学費等)納入に関するお知らせ

東洋大学報アンケートご協力のお願い

「第九」演奏会合唱員募集

住所変更の手続きについてのおお願い

あの人この人 STUDENT

「グリーンマップ」の作成で川越をよりエコロジカルな街へ

工学部のある川越市は、豊かな自然環境に恵まれ、今なお城下町のたたずまいを残す街。その魅力を新たに発見しよう、川越市が企画し、本学学生や市民の協働により作成した「川越グリーンマップ」が完成した。

グリーンマップとは都市の史跡や環境関連のスポットを、地域の人々が自分の足で歩いて探し、世界共通のアイコン(絵文字)を使って表した環境マップのこと。一般の地図やガイドブックのように標識となる建物だけではなく、「安らぎの場」「子どもに優しい場所」「夕日が見えいな所」などをアイコン化していく。さらに「騒音源」「大気汚染源」などのマイナス要素も示すことで、大きな特徴がある。

「数年後また調査をした時、プラスの要素が増え、マイナス要素が改善されていることが大切。いいものも悪いものも含めて、現状を認識するためのマップです」と、卒業でも川越の都市景観をテーマに研究した河村さんは説明する。また、小林さんは、既に街を良く知っている市民と、純粋な目で新たな発見ができた学生。双方が融合して取り組みになったと思う」と地域と連携した事業の効果も語る。

「どんな進路に進んでも環境への配慮を第一に考えなければならぬ」と小瀬先生。授業で学ぶのは世の中のごく一部の現象。だから、身近にある問題発見の場をできるだけ提供したいという。小瀬研究室で学んだ彼らは皆、環境問題に取り組むことは企業の社会的責任であり、個人としても企業人としても、「一生このテーマに関わりたい」という将来の希望を語ってくれた。「環境行動の実践は自分以外の他人への配慮でもある」という先生の思いは、彼らに確かに伝わっているようだ。



「川越グリーンマップ」作成に取り組んだ環境建設学科小瀬研究室のみなさん



左から
石井章文さん
山崎竜太さん
斎藤弦さん(以上4年)
小瀬博之助教授
河村文太さん(研究生)
正木智さん(4年)
小林真さん(研究生)

一人でも続けられたのは周りの支えがあったから

大学スポーツには欠かせない応援合戦。東洋大学では、リーダー部、チアリーダー部、楽器部によって応援指導部が構成され、駅伝、野球、アイスホッケーなど、様々な試合にかけつけ、母校に声援を送っている。そんな中、今回紹介する清水君の姿はひととき目につく。それもそのはず、学ラン姿で応援の指揮をとるリーダー部門は、清水君がたつたひとりである。自分が見て、一人でも多くの選手の励みになればという清水君に話を聞いた。

きっかけは、応援指導部員からの勧誘だった。最初、自分とは無縁の世界だと思っていた。ただ、大学で何か始めたいと思っていましたし、高校時代にバレー部のマネージャーを経験して、人を支える事に興味はありました。入部を決めた時、周りからは絶対無理だと言われましたよ(笑)。

入部後は、「物事は続けることが大事」という信条のもと、練習に励んだ。ただ、入部から半年以上がたち、4年生の引退が近づくと、不安が広がった。このままだと来年は自分一人「応援」について悩んだ時期もあった。「応援」そのものは、結果が白黒はっきり



り出ないですよ。目標を見いだせなくて、もどかしさを感じていました。10月の出雲駅伝は、その気持が吹っ切れるきっかけになった。「公の場で初めて、先頭に立って応援をしたのですが、観客の反応が先輩の時とまるで違う。見てる人にはいい加減な気持ちも伝わってました。それからは、気持ちが伝わる応援をしようという目標ができました」その後、箱根駅伝をはじめ、数々の舞台で経験を積んだ。特に、野球の春季リーグ戦は感慨深かったという。応援ありがとう、という声を野球部員からかけられた時は、本当に嬉しかったですね。

今後は部員の確保が大きな課題だ。「時期も学年も関係なく、入部は大歓迎です。声も体も大きくない、僕が続けられたのだから、誰でもきつと大丈夫。新しい世界が広がりますよ。」

応援指導部リーダー部門

清水瑛士さん

(社会心理学科2年)

